

今日のキーワード「街角景気」、回復感じわり広がる(日本)

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象(ウォッチャー)です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2～3カ月先の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1 現状判断DIは4カ月連続で中立を上回る 急速な円安進展で企業動向が低下

- 5月の「景気ウォッチャー調査」(調査期間5月25日～31日)は、「現状判断DI」が前月比▲0.3ポイントの53.3ポイントと低下しましたが、4カ月連続で中立の50ポイントを上回りました。家計動向、雇用は上昇しましたが、企業動向が低下しました。5月中旬ごろからの急速な円安の進展が影響したと見られます。
- 街角の声には、「ここへきて円安傾向が進んでおり、輸入と輸出とでは反対の影響がみられるが、円安や株高はムードを良くするため、投資意欲も高まってきているように感じる(近畿の電気機械器具製造業)」といった、円安に対して前向きな声も一部で聞かれました。

ポイント2 先行き判断DIは上昇傾向続く ボーナスやインバウンド需要に期待の声

- 2～3カ月先の見通しを示す「先行き判断DI」は前月比+0.3ポイントの54.5ポイントと6カ月連続で上昇し、5カ月連続で中立の50ポイント以上となりました。物価上昇への懸念などがみられるものの、賃上げや夏のボーナス、外国人旅行者への期待などから、家計動向、企業動向が上昇しました。
- 街角の声には、「夏のボーナスが前年を上回ることや株高を背景とした資産効果もあり、インバウンド需要も引き続き見込まれるため、好調が続く(東海の百貨店)」といった消費に期待する声が聞かれました。



今後の展開 企業収益の拡大が設備投資、消費の拡大に波及へ

■1-3月期の実質GDP成長率が上方修正

内閣府が8日に発表した2015年1-3月期の実質GDP成長率の2次速報値は、前期比年率+3.9%と1次速報値の同+2.4%から上方修正されました。企業の設備投資が上方修正されたことが主な要因です。企業収益の拡大を背景に、企業の設備投資への意欲がさらに高まることが期待されます。

■今後は内需拡大が景気をけん引

企業収益の拡大は賃上げにも波及しています。消費税増税の影響が一巡したこともあり、物価の影響を除いた4月の実質賃金は、2年ぶりに前年同月比プラスに転じました。物価上昇率に落ち着きが見られることから、実質賃金の上昇傾向は続き、消費の回復基調の強まりが期待されます。

ここも
チェック! 2015年06月04日 「消費者物価」、増税の影響が一巡(日本)
2015年06月02日 毎月勤労統計調査(2015年4月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。